

計画

# ヤギが産まれた

学校法人常磐会学園常磐会短期大学附属茨木高美幼稚園（大阪府茨木市）[3～5歳児]

事例 ヤギの飼育活動

	子どもの様子	環境の工夫
日頃の体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「クネクネやったのがチョウになった」不思議＝<b>学び</b></li> <li>・「何食べるのかな?」「この小さいのがテントウムシの赤ちゃん?!」調べる・発見する＝<b>学び</b></li> <li>・ニョロニョロしてる。プニョプニョしてる。</li> <li>・足が出てきた! 手が出てきた!</li> <li>・見て触って感じる＝<b>感性・行動力</b></li> <li>・「ウンチとか掃除してあげたら喜ぶよ」世話をする・思いやりの気持ちをもつ＝<b>道徳性</b></li> </ul> 	<p><b>2008年度の環境…基盤になる環境の工夫・計画</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭での生活経験</li> <li>・親子での話題</li> <li>・親子活動への参加</li> </ul> </li> <li>地域                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・四季を感じる地域の自然環境（奈良東公園・きつねの森公園・桜通り・田んぼ・畑など）</li> </ul> </li> <li>動物村                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な動物の検診・疑問に答える</li> <li>・動物に合わせた餌の提供</li> <li>・年に一度「一日動物村」を幼稚園で開催</li> </ul> </li> <li>幼稚園                     <ul style="list-style-type: none"> <li>◎動物小屋での飼育動物（ヤギ♀ アヒル♂・♀ ウサギ♂・♀ モルモット♂・♀ ハムスター♂・♀）</li> <li>◎動物小屋・園庭・クラスでの飼育物の環境の工夫（保育者中心）</li> </ul> </li> </ul>
飼育動物の世話・観察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度4歳児の時にヤギの出産を体験した子どもたちが飼育をする。今まで以上に動物に対して関心を示し、進んで世話をしようとする。<b>意欲・行動</b></li> <li>・継続して世話をすることで、食べ物、糞の形や量、触れ合い方など、実体験を通して学ぶ。<b>学び</b></li> <li>・「僕たちが世話しないとヤギさんがかわいそう…」「お家をきれいにしてあげたら喜ぶよ」と、動物や虫も生きていて命があることに気付く。<b>共生</b></li> <li>・世話をする中で、疑問に思うことや不思議に思うこと、それらの事柄を調べたり発見したりする。<b>学び</b></li> <li>・5歳児の刺激を受け、3・4歳児も年齢に応じた見方捉え方がかかわる。<b>意欲・行動</b></li> </ul>	<p><b>2009年度の環境…感じられる環境の工夫・計画</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>触れ合うだけでなく、掃除やご飯の準備など子どもたちで進めているような環境の見直しを行う。<b>掃除道具や片付けの場所を表示し、子どもが使いやすく、自分達で考えてできるようにする。世話をしたい幼児ができるようにする。</b></li> </ul> 
発想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度5歳児から飼育物の世話を引き継ぐ。糞の多さや匂いを気にしながら小屋の掃除をする。<b>道徳性</b></li> <li>・ヤギのお腹が大きい。お腹に赤ちゃんがいることに気付く。「いっぱい入っているのかな?」<b>学び</b></li> <li>・3歳児は「増えた?」と保育者に尋ねる。</li> <li>・ヤギが誕生したことを知る。親ヤギの尻の血を気にかけて「どこから産まれたのだろう?人間は足と足の間から産まれるんや」と言う。保育者の説明を受け、産まれたところを納得する。<b>学び</b></li> <li>・「(産まれる時)お母さんお腹が痛いねんで。お母さん泣いてたもん。泣くぐらい痛いねんで」と友達と話したり「頑張ったね」と親ヤギに言ったりするが、騒ぐことなく見守る。<b>道徳性</b></li> </ul>	<p><b>興味や発想を引き出す環境の工夫（寄り添う計画）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヤギの出産カレンダーを作り掲示する。毎日、「まだかな」「もうすこし」のシールを貼る。</li> <li>・動物村の飼育員の方と連携を密に取ったり、獣医師の資格をもつ保護者の協力を得たりする。</li> <li>・子ヤギの写真を撮影し、ボードに貼って出産・誕生を知らせる。</li> <li>・外から見られるように囲いを作る。</li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者の体重測定の様子に興味をもち観る。<b>学び</b></li> <li>・朝夕2回の体重測定のうち、朝の測定を5歳児が行う。<b>行動力</b></li> <li>・自分たちで測定した記録を貼る。優しく抱き、世話や測定をする。<b>道徳性・行動力</b></li> <li>・子ヤギの名前を考え、みんなで相談して決める。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3頭いるとお乳が十分に飲めない。3頭のうち黒いヤギは体が小さい。動物村に移すのではなく、園で飼育したいと考え、順調に体重が増加し発育しているか調べるため、体重測定をする。</li> <li>・成長の記録ができるように模造紙で表を作る。</li> <li>・表に「ふえた・そのまま・へった」のシールを貼って測定結果がわかるようにする。</li> <li>・集会や掲示板を活用し、親子でヤギの名前を考え、みんなで決める機会を作る。</li> </ul>

ポイント

動物の飼育は、長期間の見通しや計画をもって環境や指導の工夫を図る必要があります。その環境の中で子どもたちの日々のかかわりが基盤となって、飼育動物への心情や知識、かかわる意欲や態度が養われ、出産や誕生という貴重な場面や状況での体験がより豊かな育ちにつながります。興味を引く子どもにわかりやすい環境があることで、感じたり観たりするばかりでなく、子どもから豊かな気付きや発想、工夫が引き出され、意欲的なかかわりや生き物への望ましい態度が培われたりして、「科学する心」が育まれていきます。